



カステラくんが出題する問題に、何問答えられるかな?○○に入る言葉を答えてみよう。
問題は、このエコなが通信第11号に掲載している内容なので、分からぬときは、探してみてね。

Q 1. 国内初の導入に向けて行われている○○式洋上風力発電実証事業。

Q 2. 森林のCO₂吸収をUPするためには森林の○○が欠かせない。

Q 3. エコドライブには、加減速の○○い運転で燃費UP!

Q 4. 家庭の省エネのポイントはCO₂排出量の○いところから効果的に!

Q 5. 平成23年3月現在の長崎県地球温暖化防止活動推進員は○○○人。

Q 6. エコノザウルスの環境マンガ展の、イラストを描いた作者は、○○亮さん。

Q 7. ながさき○○○俱楽部の会員は、長崎県の環境保全に貢献できる。



Q1.浮体 Q2.樹袋 Q3.少な Q4.多 Q5.101 Q6.本田 Q7.太陽光

地域からはじめよう！出前講座開催のご案内

みなさんの地域でも、「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といった要望がございましたら、地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい環境教材に、子どもたちも大喜び！みなさんも環境講座を開いてみませんか？

出前講座開催までの流れ

① 出前講座開催申込み

センターのホームページ (<http://nccca.jp>) より申込用紙をダウンロードできます。実施予定日の**1か月前**までに申込用紙をセンターへ提出して下さい。

開催場所は
県内に
限ります！

② センターから各推進員へ連絡・調整

・講師料／**無料**

(講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)
・講座の時間／原則午前10時～午後5時までの間90分以内
※曜日、時間等はご相談ください。諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、予めご了承ください。

教材は
ホームページを
ご覧ください！

③ 出前講座の受付確定と実施

出前講座申込み者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。

ご不明な点は
センターへ
ご相談ください！

エコなが通信

発行月 / 平成23年3月 編集 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター

TEL / 095-895-2512 FAX / 095-895-2566

エコ なが 通信

温暖化防止かわら版
<http://nccca.jp>



第11号

2011.3

お問い合わせ窓口へおこなうよ

家庭からCO₂削減
暮らしへのトライバーサー
200世帯に聞きました
県内ハイスタイル調査

エコ 君が 通 信

温暖化防止かわら版
<http://nccca.jp>

発行月／平成23年3月

編 集／長崎県地球温暖化
防止活動推進センター

発 行／長崎県未来環境推進課

T850-8570 長崎市江戸町2-13

TEL／095-895-2512

FAX／095-895-2566



長崎県五島市桟島沖で実験！

浮体式洋上風力発電実証事業

環境省は、洋上風力発電実証事業（受託者：京都大学）において、我が国初となる2MW級の浮体式洋上風力発電実証機の設置候補海域として、五島市桟島周辺を選定した。国内の中長期的な温室効果ガスの排出削減を進めるためには、再生可能エネルギーの導入を強力に推進する必要がある。排他的経済水域が世界第6位の海洋国である日本は、洋上での風速が強く、その変動が少ないため、安定かつ効率的な発電が見込まれ、その実用化が期待されている。

洋上風力発電のうち、水深が浅い海域に適した着床式については、国内3ヶ所で運転を開始している。一方、より深い海域に対応する浮体式については、世界的にもノルウェーにおいて2.3MWの実用機が建設されているのみであり、国内での導入事例はない。そこで、環境省では、2MW級の浮体式洋上風力発電実証機1機を外洋域に設置することを目指して、実証事業を開始。受託者である京都大学が事務局となって、検討会を開催し、候補海域の選定、環境影響評価手法の検討、基本設計等を進めている。実際に海域に設置するのは平成25年度ごろ。それに先立ち、100kW程度以下の小規模試験機を実施海域に設置し、環境影響や安全性に関する情報を収集する。収集した情報は、周辺地域関係者の安心感の醸成や、2MW級実証機の製造・制御に反映する。

平成22年12月21日 環境省報道発表資料より抜粋 <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13288>

「地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県に設置されており、長崎県センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」「活動支援」「調査」などを行っており、その一環として、「エコなが通信」で情報を発信しています。

ストップ温暖化大賞
低炭素杯2011レポート 2p

全国から選ばれた取り組みを紹介

CO₂排出量が多いところから効果的に削減!
暮らしのアドバイザー 5p

200世帯にきました!
長崎県下ライフスタイル調査 6p

幅広く活動しています!
地域の推進員紹介 7p

エコノザウルスが地球を食いつぶす!?
エコノザウルスの環境まんが展IN五島 9p

長崎県未来環境推進課からのお知らせ 10p



ストップ温暖化大賞 低炭素杯2011レポート

2月5日(土)、6日(日)、全国47の学校や企業などが展開している温暖化防止活動の輪を広げて、低炭素な社会を構築するため「低炭素杯」が東京大学安田講堂で開催されました。



グランプリと準グランプリは下の4団体。

今回は、グランプリと準グランプリから、それぞれ1団体の活動を次ページでご紹介します。

環境大臣賞 グランプリ

ここがスゴい! 企業も森も嬉しいシステムづくり

東京都 環境NPOオフィス町内会

森の町内会（新たな仕組みによる間伐促進と森林のCO₂吸収）



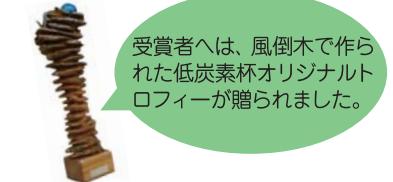
▲グランプリに輝いた環境NPOオフィス町内会の半谷さん(右)

環境大臣賞 準グランプリ(3団体)

ここがスゴい! 研究から商品開発まで実施している

大分県 大分県立日田林工高等学校 林産クラブ

「里山再生プロジェクト」竹とバークを原料としたファイバーボードの開発



受賞者へは、風倒木で作られた低炭素杯オリジナルルロフィーが贈られました。

ここがスゴい! 自治会総ぐるみの活動

鹿児島県 出水市六月田下自治会

集落全員でCO₂削減10%達成しつづける元気な工コ集落

ここがスゴい! ノシバによる新しい緑化

京都府 京都府立桂高校 TAFF「地球を守る新技術の開発」班

都市を冷やせ!～温暖化・水消費を抑える緑化システムの普及～

その他9団体が各賞に選ばれました。

詳しくは、[低炭素杯](#) [検索](#)



グランプリ 環境NPOオフィス町内会(東京都) 紙を使って森が喜ぶ環境保全



▲ 間伐サポーター企業・団体の皆さんと「間伐に寄与する紙」を使った印刷物

元気な森をつくる仕組み

環境NPOオフィス町内会は、東京電力を母体として1991年にオフィス古紙の共同分別回収に関する企業と回収会社のネットワークとして発足し、現在も5,800t／年の古紙を回収し独立採算で古紙のリサイクル活動を継続している。「森の町内会」活動は、同NPOが2005年に東京と岩手との間で開始した、間伐と間伐材利用を促進する新たな活動。間伐の促進に賛同するサポーター企業に印刷用紙として使用してもらう「間伐に寄与する紙」は、従来の紙代より10%ほど価格が高く設定され、その全額(15円/kg)が間伐促進に貢献する仕組み。165の企業・団体が参加し、間伐面積は53ha/年に及んでいる。紙代としては10%アップするが、印刷までのトータルコストでは1～2%程度の負担で済む。「間伐に寄与する紙」の使用によって、通常の業務のなかで無理なく間伐支援を継続できるようになっている。

森の整備が進まないワケ

国産材の利用低迷と林業の不振の中で間伐が行き届かず、森林のCO₂吸収力の低下が懸念されている。問題の核心には、間伐にかかる費用がその収入を上回ってしまうという間伐コストの現状があり、その課題解決のために始めた取り組みがこの「森の町内会」活動だった。

今後は全国へ活動拡大

参加企業・団体は、CSR報告書をはじめとする様々な印刷物に「間伐に寄与する紙」を使用し、自社の環境貢献をアピールしている。「森の町内会」は、国産材を積極的に使うマインドを消費サイドに広げることによって、供給サイドでの林業の再生を支援し、日本の森が元気を取り戻すことに貢献したいと考え、4地域で活動を展開している。今後も、全国各地で新たな「森の町内会」を立ち上げていく予定だ。



あなたの町でもやってみませんか

地域で頑張る活動を紹介

準グランプリ 出水市六月田下(いすみしろくがつだしも)自治会(鹿児島県) 楽しみながら省エネ実行!浮いたお金で温泉旅行



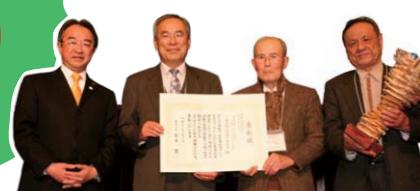
▲ オリジナルのパネルを持って発表

自治会総ぐるみの省エネ活動

出水市六月田下自治会は、鹿児島県の南に位置する六月田町にある自治会で、58世帯が暮らし、うち65歳以上の高齢者が42%を占めている。自治会長兼環境部長の松田さんの発案で、2006年度からCO₂排出量削減に取り組み始めた。素晴らしいことは、集落全世帯で取り組んでいるということ。2009年度1戸あたりの光熱費とCO₂削減率は、2006年度比でそれぞれ42,000円、10.5%のマイナスだ。

継続は力なり。省エネ「通知表」の成果

各世帯の省エネ活動が成功している要因の一つが「通知表」の発行。毎月、光熱費を松田さんに提出する。そして、CO₂排出量と光熱費をまとめた「通知表」を年2回各世帯へ配布している。実行している省エネ活動の効果が表れているかどうか数字で実感できるシステムはやる気につながっている。まずは自分の家の光熱費は? 使用量は?と現状を把握することが大切。継続した記録と実践の成果が、42,000円の削減につながったのだ。浮いたお金で温泉旅行に出かけるなど、暮らしを豊かにする面に使われることも魅力である。



▲ 環境省副大臣(左端)との記念撮影



▲ 自治会ではゲートボールもコミュニケーションの場

自ら楽しむことが何より一番

今回の発表では最高齢86歳、平均年齢72歳の18名がステージに立ち、手作りのパネルを持ち、活き活きと発表していた。当日の発表で審査員の心をつかみ一気に順位を伸ばし、準グランプリを勝ち取った。取り組み自体をみなさん楽しんでいることが長く続く秘訣であることが伝わってきた。それだけではなく、今回会場へ来れなかった仲間へ早く受賞を報告しなきゃ!という声も聞こえてきた。取り組みを通じて自治会の中のツナガリや絆が深くなっていることも素晴らしいと感じた。



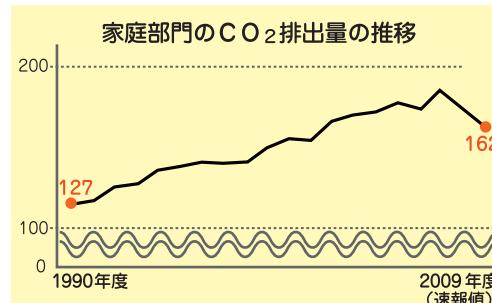
CO₂排出量が多いところから効果的に削減！

家庭からCO₂削減！暮らしのアドバイザー

現在、家庭からのCO₂排出量は、増加傾向にあります。そこで、センターでは「家庭から出るCO₂排出量が多いところを知り、効果的に削減する」という目的で、「暮らしのアドバイザー事業（環境省補助事業）」にて、県内92世帯の方々へ、暮らしの省エネアドバイスを行いましたので、その結果を報告します。

家庭のエネルギー消費の現状

右の図を見ると、家庭部門のCO₂排出量は、2009年度と1990年度を比較し、約3割増加しています。また、私たちの生活は有限な地下資源によって成り立っています。資源を大切に使うことは、地球温暖化防止はもとより、私たちの生活を持続可能なものにするためにも必要なことです。そこで今、家庭から出るCO₂排出量を削減しようという動きが活発化しています。



グラフ参考資料：温室効果ガスインベントリオフィス

日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2009年度速報値)(2010.12.27発表)

*各排出量の単位は[百万トン-二酸化炭素(CO₂)換算]



▲研修会でお互いに相談のシミュレーションを行う様子

暮らしのアドバイザーとは

家庭それぞれのライフスタイルに合わせて、省エネを提案する相談員のことです。省エネ提案方法や、家庭へ訪問するためのマナーなどを、研修で学びました。アドバイザーとして認定された17名は、実際に家庭へ出向き、省エネ提案を実施しました。

省エネ相談後の結果

今回、暮らしのアドバイザーが相談を実施した家庭は92世帯。相談後、電気とガスの省エネを実践しました。厳しい寒さにも関わらず、約4割の世帯が使用量を削減できました。これも、各家庭のライフスタイルに合わせた省エネ提案の成果だと思います。

※使用量を削減できた世帯数とその割合は、検針票回収済 84世帯の電気の省エネ結果から算出 H23.3.9時点

省エネに挑戦した家庭の声

相談家庭のみなさんからの声をご紹介します。

数値としては削減できなかった家庭からも継続の意欲など前向きな意見が多数ありました。

寒い中でも、参加世帯のうち34世帯が、
使用量を削減できたということだね！



- ・意識はしたが、受験生がいたので、実践は厳しかった。来年はもっと削減できると思う。
- ・12月と1月の料金の違いに驚いた。この2か月で省エネの事を意識するようになった。
- ・継続するには家族の協力が不可欠なので、家族にも声かけしながら意識を高めていきたいと思う。



200世帯に聞きました！

長崎県下ライフスタイル調査

長崎県下、4地区で家電の保有台数などを伺う調査を実施しました。調査の項目は、電化製品、給湯、自家用車、世帯構成数などです。調査から分かる長崎県民のライフスタイルの一部をご紹介します。

(n=数値): 有効回答世帯数

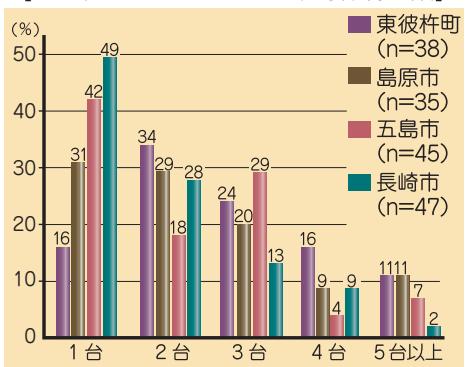
例/東彼杵町38世帯中、エアコン保有1台は16%の6世帯にあたる。

調査：1世帯当たりのエアコン保有台数

POINT お出かけ30分前のOFF！

最近は、エアコンも「一家に1台から一部屋1台」へ移行しているようです。2人以上の家庭で平均2.81台保有という総務省の全国普及率統計データ(2009年)もあり、効率のいい使い方が省エネのポイントと言えます！冬は、足元に送風したり、一気に高温(21℃以上)運転させないなどできることからはじめましょう！

【1世帯当たりのエアコン平均保有台数】



【都道府県別1世帯当たりの自家用車保有台数】

順位	都道府県	台数
1位	福井県	1.76台
2位	富山県	1.74台
3位	群馬県	1.71台
4位	岐阜県	1.70台
5位	山形県	1.65台
41位	長崎県	1.05台
43位	兵庫県	0.97台
44位	京都府	0.92台
45位	神奈川県	0.81台
46位	大阪府	0.73台
47位	東京都	0.53台

出典：国土交通省 都道府県別人口・世帯別車両数(2006年3月末現在)

※上位・下位5位と長崎県を掲載

無理なく難なく省エネ実践



調査により、長崎県民のライフスタイルの傾向を少し知ることができました。皆さんの家庭はどうですか。まずは、ご家庭が今どのようなライフスタイルか意識することからはじめましょう。省エネのPOINTなど実行してみて、無理なくできるようであれば、継続して実践できます。各世帯の継続的な取り組みが、全体の温室効果ガス排出量削減へ向かうでしょう。

◆長崎市でのアンケート調査の様子



幅広く活動しています！ 地域の推進員紹介

壱岐地区

長岡 信一さん



【活動対象】

小学生、公民館長、館員、一般

【活動内容】

市内の2校を選び、各校3回ずつ訪問し、5・6年生に、環境教育を実施。公民館長会で「エコなが通信」を活用しての啓発活動や、公民館員に「ごみ減量化」の講習会を開催。

【関心ある温暖化のテーマ】

小学生から、地球温暖化のしくみを知り、温暖化防止に対する意識を高める環境教育のあり方や、自然エネルギーの活用方法。

【自己PR】

小学校に勤務していたこともあり、子どもたちとのふれあいを大切にしています。現在は公民館長をしていますので、地域の皆さんに、少しでも関心をもってもらえるような取り組みをしようと思っています。



▲ 生ごみを堆肥にする方法を教える学習会の開催

幅広く活動しています！

地域の推進員紹介

長崎県から委嘱された推進員は県内に101名。温暖化防止のために熱心に活動しています。

推進員が伺う出前講座
開催の詳細はウラ表紙をご覧ください。

佐世保地区

山野 清子さん



【活動対象】

幼稚園児、小学生、婦人会、一般

【活動内容】

- ・生ごみを堆肥化し、その堆肥を利用して花や野菜を育成。作った堆肥や、育てた花や野菜は学校などへ寄付
- ・レジ袋削減運動やエコグッズ普及

【関心ある温暖化のテーマ】

- ・ごみのない町づくり
- ・環境保全で町おこし
- ・世界各国の温暖化防止の取り組み

【自己PR】

持続可能な循環型社会をめざす。
大自然に囲まれ、ごみのない町にするため、仲間と一緒に楽しく運動を進めたいです。



▲ 不要な布などを再利用したエコバッグづくりも実施

講演会や出前講座開催のご相談はセンターへお気軽に問い合わせください。あなたの町の推進員をよろしくお願いします。

県央地区

井手 千恵美さん



【活動対象】

各種OB会、自治会、学校、一般

【活動内容】

生ごみを堆肥化し、ごみ減量に成功。夏はゴーヤカーテン、冬は省エネを実行しました。また、地域住民が参加し、国道沿いに、桜を植樹した後、清掃活動を実施。

【関心ある温暖化のテーマ】

- ・自然エネルギーの利用
- ・ものの大切さを伝える環境教育
- ・ごみを出さない町づくり

【自己PR】

環境美化活動として、国道34号線沿いに桜を100本植樹し、それぞれの樹に名前を付ける「大村マイツリー活動」を年4回実施。温暖化防止の話もしています。

※NPO法人道守長崎の協力により実施



▲ 大村で近隣の子どもたちと植樹活動を実施

県北地区

松田 征男さん



【活動対象】

地域住民全般

【活動内容】

環境美化については、地域住民の理解と協力が不可欠。行政と連携を取り、週2~3回程度ごみ箱の分別作業を実施。各種会合では、温暖化防止の呼びかけをしています。

【関心ある温暖化のテーマ】

生ごみリサイクルと減量化。空き地を活用し、生ごみ堆肥化を研究中。農家にも協力を求め、取り組んでいきたいです。

【自己PR】

まず、地域住民に関心を持ってもらうこと。また、疑問点は自分が理解できるまで質問しています。そして、他人に強制せず自ら実践することも大切にしています。



▲ 暮らしのアドバイザーとしても活動



エコノザウルスが地球を食いつぶす!?

「エコノザウルスの環境マンガ展 IN 五島」

平成23年2月11・12日、五島市福江文化会館で、「エコノザウルスの環境マンガ展 IN 五島」が開催されました。五島地区推進員も6名参加し、会場設営や運営などを手伝いしました。今回、主催した実行委員会の会長でもある五島地区推進員の門原淳一さんに、お話をうかがいました。



▲左から推進員の門原さん、作者の本田さん、推進員の嶋里さん

環境マンガ展とは

東京の広告代理店に就職し、CMプランナーとしての経験をもつサラリーマンの本田亮さんが、1990年に、サハラ砂漠で環境問題にめざめ、ユーモラスかつ客観的に事実をまとめて環境問題のイラストを描き始めました。エコノザウルスとは私たち人間のことと、巨大なエコノザウルスが地球を食いつぶすというコンセプトであり、それが環境マンガのはじまりです。その後、書籍やカレンダーを多数出版し、作品も300点となりました。全国各地で環境マンガ展を開催し、今回は54点の作品を展示、30名が来場しました。

若い世代に伝えたい

五島市は平成18年度、長崎県内で一番、家庭から出るCO₂が多かった地域です。事業用に電気自動車を導入するなど意識が高まりつつあるので、市民レベル、とくに若い世代に環境全般について考えてもらおう、そのためには楽しくてわかりやすい環境マンガ展が最適だと思い、開催しました。



▲本田さんのイラスト

2年後は「大エコノザウルス展」を開催したい

集客が一番の問題でした。今回、五島市や事業所(ゆうゆうの里のCSR)などの協力で、資金や会場使用には問題なく、入場無料で開催できましたが、広報期間が短く認知度は低かったです。これから2年間、学校を中心に「エコなエコノザウルス移動展」を開催し、2013年度予定の「大エコノザウルス展」開催につなげたいと思います。

来場者の反応

「面白いけど笑えないというテーマの意味が分かった」「環境に限らず、経済問題など、人間活動全般について考えさせられた」という感想をもらいました。

本田亮さんのホームページでイラストを見るすることができます。
<http://www.econosaurus.com/>



長崎県未来環境推進課からのお知らせ

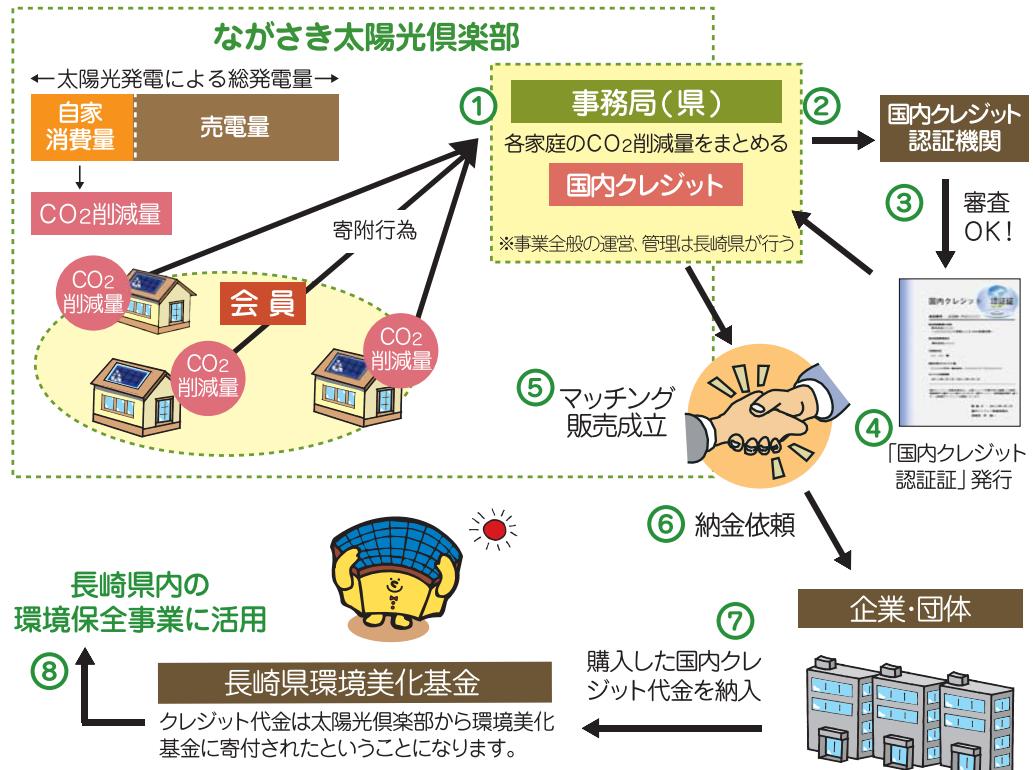
長崎県の環境保全活動に参加しませんか

長崎県では、各家庭の太陽光発電導入によるCO₂削減量を取りまとめ、国内クレジット制度を活用し、県内の環境保全事業につなげる取り組みを実施しています。「ながさき太陽光俱楽部」に参加し、長崎県の環境保全に貢献しませんか。

ながさき太陽光俱楽部とは

住宅用太陽光発電を設置している方が参加できる環境貢献団体です。事業全般の運営、管理は長崎県が行うので、手間もかかりず、県の取り組む環境保全事業に貢献できます。

※太陽光発電導入によるCO₂削減量(総発電量と総売電量の差)をクレジット代金とし、長崎県環境美化基金に寄附し、最終的に、県内で実施している環境保全事業に活用されます。



*国内クレジット制度…大企業等による技術・資金等の提供を通じて、中小企業等が行った温室効果ガス排出削減量(国内クレジット)を認証し、自主行動計画や試行排出量取引スキームの目標達成等のために活用できる制度。

お問い合わせ先 長崎県環境部 未来環境推進課 地球環境班

TEL:095-895-2512 FAX:095-895-2566

詳しい情報は http://www.pref.nagasaki.jp/kankyo/mirai/menu_suishin_03_03.html